

ツール 60：評価

このツールの目的

達成できたことを共に考え、まだやらなければならないことを明確化し、次のステップに向けたコミットメントを醸成する。

このツールを使うタイミング

コミットメントのフェーズで、イベント終了に当たり、意思決定が必要で、取るべきアクションについての合意が必要な場合。

評価の使い方

MSPのファシリテーターは、ワークショップの終了に当たり、期待や目的が達成されたかや次のステップとして何が必要かを確認するため、短時間でできるさまざまな参加型評価手法を活用できるようになるべきだとCDIは考えている。プロセスや状況に応じ（イベント終了時、メンバーは疲れているか？どれぐらい時間があるか？個人向け手法とグループ向け手法を組み合わせることができるか？評価の結果をどのようにして記録するか？）、どの手法がベストかを決めればよい。

ここでは、ワークショップその他のMSPのイベント終了時に活用できる、時間のかからない評価ツールをごく少数紹介する。より深い中間レビューやプロジェクト/プログラム終了時評価、効果/影響評価については、後段で挙げるサイトを参照のこと。これらのサイトはまた、パートナーシップの一環としてモニタリング・評価の枠組みの設計について検討する際にも有用だ。これは、あらゆるMSPにおいて重要な要素となる（第3章を参照のこと）。

イベント終了時の短時間の参加型評価：

評価の車輪（約30～40分）

ステップ1：グループを作り、各グループに評価したいテーマを2つ決めるよう伝える。評価するテーマは何でもよい。たとえば、結果、内容、ファシリテーション、資料、ロジなど。第1ラウンドとして、各グループに順に、1つのテーマのみに尋ねる。複数のグループから同じテーマが挙げられた場合は、それを選択し、カードに書き留める。第2ラウンドとして、まだ挙げられていない新たなテーマがないかを尋ねる。複数の参加者グループが挙げたテーマを記載したカードを5枚選ぶ。

ステップ2：評価の車輪を作る：フリップチャート上に中心から5本の軸が伸びた大きなサークルを描く。5本の軸の先に5枚のテーマカードを貼り付ける。それぞれの軸にスコアを入れる：0%は中央、100%は車輪側、50%はその中間だ。スコアが付けやすいよう、25%や75%を加えてもよい。

ステップ3：グループとして（そのため名前は必要ない）、全員が、5つのテーマそれぞれについて、自分が思うスコアの箇所にマジックでチェックを入れていく。

ステップ4：全員が終わると、ファシリテーターは結果を紹介し（スコアが多くかたまっている箇所を雲状に囲む）、スコアが高いグループ、スコアが低いグループそれぞれの代表者になぜそのスコアを付けたのかを尋ねる。そのコメントを記録する。

リビング・ライン (約20分)

ステップ1：参加者が1列に並べるようなスペースを作る。列の片方の端に、笑顔のマークと「100%」と書かれたカードを、もう片方の端に、泣き顔のマークと「0%」と書かれたカードを置く。

ステップ2：全員に、ライン上の自分自身に対するスコアの位置に立つように言う。

ステップ3：スコアが書かれたラインをPowerPointで作成し、参加者にライン上に自分のスコアの位置を示すように言ってもよい。あるテーマのスコア付けの後には毎回、そのスコアについてのまとめを行い（「X%からY%の間に皆さんは立っています」）、それぞれの両極にいるメンバーに、なぜそこに立っているのかを尋ねる。そのコメントを記録する。

もし時間が許せば、参加者に違うテーマを評価したいかどうかを尋ねる。

プラス・マイナス (+/-) のラウンド (約20分)

ステップ1：椅子でサークルを作り、全員からはっきり見えるような位置にフリップチャートを置く。

ステップ2：参加者に、最終的に得られたポジティブな要素1つと、改善のための推奨事項または次のイベントをよりよいものとするための助言を1つ、個々人で考えるように言う（5分）。

ステップ3：順番に意見を聞き、プラス (+) 欄とマイナス (-) 欄のあるフリップチャートに記入していく。同じ意見が複数回出た場合は、その意見の横に「I」を追加していく。

ステップ4：最後に、最も数多く挙げられた意見が何だったかについて述べ、簡単なまとめを行う。

クリエイティブ・レプレゼンテーション (約30分)

ステップ1：4~6人のグループを作る。各グループに、イベントの最後の5分以内で、主な学びと、直面した問題について議論し、まとめるように言う。

ステップ2：その後、各グループは、彼らが学んだことを表すために用いることができる素材を部屋の中で探す。この表現用に使用するものは、基本的にその場にあるものであれば何でもよい。（10分）

ステップ3：10分後、各グループが順番に意見を発表する（約15分）。報告書のために写真を撮り、グループのプレゼンテーション内容を記録する。

さらに知りたい方は：

評価の基礎とモニタリング・評価システムの設計：

<http://www.managingforimpact.org/>

ヴァーヘニンゲン大学/CDIが2016年に開催した、パートナーシップのための評価&モニタリングカンファレンス：<http://www.managingforimpact.org/event/conference-partnering-success-how-me-canstrengthen-partnerships-sustainable-development>

評価の実践におけるクリティカル・シンキングの概要：<http://betterevaluation.org/>